『脚本アーカイブズ』とコーパス日本語学

寄稿

丸山岳彦（文学部日本語学科教授・コーパス日本語学）

数年前から、「日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム」（NKAC）という組織の活動に携わっています。テレビ・ラジオドラマの制作現場で使われる「脚本」は、出版物ではないため、これまで図書館で収集・保存されることがありませんでした。ところが、1970年代以前のテレビ・ラジオドラマ作品は、映像や音声が放送局に残っていないことも多く、当時の放送文化を知る唯一の手掛かりは脚本しかありません。そこで、現存する脚本を体系的に収集・保存・管理して公開しようというのが、NKACの活動です。現在までに、約8万点の脚本を収集・管理し、うち約7万点をデータベース化して公開しています（https://www.nkac.jp/）。

言語学の立場から言えば、この脚本アーカイブズの活動は非常に魅力的です。脚本を時代ごとに収集し、体系的に保存することによって、各時代で使われている言葉を分析するためのデータが得られるからです。ドラマの脚本は、その当時の言葉づかいを知るための手掛かりを与えてくれる、格好の資料です。脚本を通して、その時代の最先端だった社会風俗やトレンドを、言葉の側面から見て取ることができるわけです。

シンポジウムで分析結果を発表する丸山教授

ポスター発表を行った丸山教授（右）と松下さん

3月23日、NKAC主催のシンポジウム「脚本で振り返る『平成』という時代」が都内で開催されました。放送関係者や脚本家、一般客らが詰めかける中、大学院文学研究科日本語日本文学専攻の松下晶子さん（2年次）と共同で、脚本の言語学的な分析例について研究発表をしました。

著名な脚本家である故市川森一氏による脚本（40作品分・約63万語）をデータ化した「市川森一脚本コーパス」を利用して、カタカナで表記される終助詞が1990年代から2000年代にかけて激減することや、「あなた」「あんた」が男女で使い分けられている実態を数値で示し、脚本が持つ言語資料としての有効性を示しました。

近年、データ科学としての言語研究「コーパス言語学」が活況を呈しています。従来、文学の領域で行われてきた「文体論」の研究を、大規模な言語データベース（コーパス）を用いて行う「コーパス文体論」。脚本をコーパスとして使い、脚本家ごと・時代ごとに比較する文体論的研究に発展させるべく、日々研究に取り組んでいます。

発禁本など展示　初公開も

図書館本館研修室で企画展開催中

「時代にゆれた表現の自由」

表現の自由をテーマに100点以上を展示

図書館主催の企画展「時代にゆれた表現の自由～江戸から平成、そして〇〇～」が4月8日から始まった。江戸期から現代まで、法の規制などによる発売禁止や自主規制で発表を見送った書物や絵画100点以上を展示している。

風俗を壊乱するとして発禁処分になった永井荷風の代表作『ふらんす物語』。人種差別に触れると改変された絵本『ちびくろ・さんぼ』（日本語版）……訪れた学生たちは興味深そうに見入っていた。

「向井信夫文庫」の江戸期和本など本学図書館所蔵コレクションも多く出展。なかでも戦後、言論活動の活発化により多数発行された大衆娯楽誌「カストリ雑誌」は初公開となる。文学部ジャーナリズム学科開設に伴い、同学科をはじめとする文学部の協力で企画した。

6月1日（土）まで。時間は平日正午～16時30分。土曜10～14時。日曜および4月29日（月祝）～5月4日（土）休み。会場は図書館本館研修室（生田キャンパス9号館3階）。

【分館休館のお知らせ】図書館生田分館は改修工事のため、6月30日(日)まで、休館いたします。休館期間中は、生田分館の閲覧室に配架されている図書資料は利用できません。

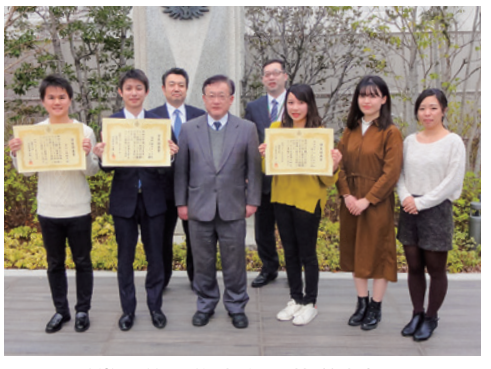
上映会&トークショー

関連企画として映画『疏開した40万冊の図書』（2013年・本編102分）の上映会とトークショーが生田キャンパスで2回開催される。

第二次世界大戦中に東京・日比谷図書館から学生らが蔵書を郊外に運び出し、戦火から本を守ったという史実に迫ったドキュメンタリー。上映会の前後に、植村八潮文学部教授が当時の時代背景などを解説する。

▽第1回＝4月24日(水)2号館アクティブスタジオ202▽第2回＝25日（木）9号館92A会議室。時間は両日とも10時45分～。申し込み不要。入場無料。問図書館本館☎044・911・1274

学生部長賞に3団体


受賞団体の代表と阿藤学生部長（前列左から3人目）ら

学内外で顕著な活躍をしたサークル・学生団体を表彰する学生部長賞の2018年度表彰式が3月6日、生田キャンパスで行われ、次の3団体が受賞した。阿藤正道学生部長から賞状と賞金が授与された。

▽ギター同好会（田中翼代表・文4）昨年末、第50回定期演奏会を開催した。

▽Dance Team MISAKI（水野佑香代表・商4）鳳祭など学園祭でダンスを披露。昨年のNHK紅白歌合戦ではバックダンサーとして出演した。

▽国際交流協力サークルS・I・A（嶋田小鉄代表・法4）回収した書き損じはがきを、NPO法人を通じて途上国の支援に充てている。

公開講座情報

法学部140回連続講演会

創立140年を記念し2015年から開催してきた公開連続講演会は、法学部の教員や卒業生が毎回一つのテーマについて論じる。いよいよ今期で140回を迎える。事前申し込み不要、無料。

▽期間＝5月7日～7月19日の火、金。一部土曜（6月15日、7月6日）▽時間＝火曜日18時15分～19時45分／金曜日19時～20時30分／6月15日10時45分～12時15分／7月6日14時～15時30分▽場所＝神田キャンパス541教室

※講師、テーマはホームページ参照

問神田教務課☎03・3265・5843

経済学部公開講座「米中二極時代の世界経済とその行方」

経済学部の教員がテーマ別に世界経済の現状を分析し今後の行方を予測する。全6回。1回だけの受講も可。無料。

▽期間＝5月11日～6月15日の毎週土曜日▽時間＝10時45分～12時15分▽場所＝生田キャンパス101103教室▽講師＝大橋英夫教授／野口旭教授／矢野貴之教授／稲田十一教授／塙武郎教授／内川秀二教授

▽申し込み＝5月8日（水）までに、申し込みフォーム（上記QRコード）かはがき、ファクスで。

問教務課（経済学部担当）「公開講座係」☎044・911・1257

E-mail：ekyomu@acc.senshu-u.ac.jp

知の発信

科研費採択研究から

経営学部教授　青木　章通

広がるレベニューマネジメント

企業が継続的に利益を生むためには、売上の増加が不可欠です。売上とは価格×数量。価格を上げれば数量は減る。価格を下げれば売れるけれど収益は最大にならない。そこで注目されているのが「レベニューマネジメント」です。直訳すれば「収益管理」。商品の価格や提供する量を、需要や企業の戦略に応じて変動させます。

代表的なのが航空券です。ウェブサイトを見れば「早割」などさまざまな料金体系があり、選択できます。同じクラスであれば、どの料金であろうと、機内でのサービスは変わりません。ホテル業界もそうです。

大規模テーマパークが日によって価格を変えるという取り組みが話題になりました。客にしてみれば選択の幅が広がります。また、安い価格日に客が移れば混雑が緩和され、高いチケットを購入しても客の満足度は上がるでしょう。

どういう売り方をすれば客の満足度を下げずに売上を上げることができるか、情報を収集し、現状を分析して価格を設定する、その管理の仕方が重要になります。現代ではネット上の口コミの影響は小さくなく、評判の管理も不可欠になっています。

革新的な情報技術の進歩で、レベニューマネジメントはさまざまな業界・業種に広がっています。しかしサービスの質の向上を伴わない価格の上昇は、短期的には売上増になりますが、長期的には評判を下げ、利益を損ないます。企業は長期的な視野で考え、売上の数字だけでなく、その内容を見る必要があります。

これは私の専門の管理会計ともつながります。レベニューマネジメントを顧客管理とからめて見ていくと、興味深いものになると考えています。今回の研究で、企業にも、客や従業員にも幸福につながるような、変動価格の設定などを提示していければと考えています。

（あおき・あきみち）慶應義塾大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学。研究分野はサービス業の管理会計、顧客別収益性分析。著書に『管理会計』（共著）など。